

3-9

主題	きれいな足で快適な生活を
----	--------------

快適な生活	副題 高齢者のフットケア
気付く力	

研究期間	7ヶ月	事業所 特別養護老人ホーム中川園

発表者：川上 隆（かわかみ たかし）

アドバイザー：佐藤倫美（さとう ともみ）

共同研究者：堀江オコウ・廣瀬桂子・宮島千恵子

電 話	03-3607-4060	メール	info@jinseisha.jp
F A X	03-3607-4654	U R L	http://www.jinseisha.jp

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	当施設は、昭和43年に葛飾区内初の特別養護老人ホームとして開設。水と緑にかこまれた閑静な地に位置する中川園は、高齢者社会の進行に伴うニーズに応え、ご利用される皆様の安全と快適性を高め、託されたご家族にもご安心を提供するべく、よりよい福祉環境づくりに努めています。
------------------------------	---

《研究前の状況と課題》

日頃、毎日見ているようで見落としがちな足のケア。1番に目が届きにくく不衛生になる場所であると共に、麻痺があったり手が届かなかったりご利用者自身、自分ではどうすることも出来ない場所なので、「あきらめ・どうでも良い・無関心」な気持ちが伺われる。職員も靴下を脱がせた時に足の乾燥から舞う皮膚や臭いが気になっていた。

《研究を目標と期待する成果》

実際、ご利用者から聞かれた「足の格好が悪いから見せるのは恥ずかしい」「足の先なんて届かないもの…」との声。ご利用者自身が不快な思いをしている姿や不穏になる事もあって悪循環となっているのが現状。きれいな足で快適な生活を送って頂きたい、そんな思いからフットケアに取り組んだ。

《具体的な取り組みの内容》

～ご利用者全員を対象～

- ① 終日、臥床時は必ず靴下を脱いでもらう。
- ② 離床時・臥床時ご利用者の足に殺菌・消臭・保湿効果のある消毒剤を噴霧する。
- ③ 就寝前にご利用者全員の靴下を回収し、毎日洗濯したきれいな靴下を履いてもらう。

～水虫の方2名対象～

継続性に欠けてきた足浴を計画的に行なえるよう午前中Aさん・午後Bさんと分け、「フットバスを使用した足浴と皮膚科で処方されている薬の塗布を実施した。その際、容器や時間・リラックスできる環境の工夫も行なった。

《取り組みの結果と評価》

＊ 皮膚状態の改善

足背乾燥の軽減・臭気の消失など皮膚状態が大幅に改善した。

＊ 水虫の軽減

湿潤がひどく痒みの訴えも聞かれたが、適度に乾燥し湿潤も飽和され痒みの訴えもなくなった。

＊ 職員の皮膚トラブル防止への意識

こまめな爪切りや皮膚状態の観察、乾燥に気付いたら進んで保湿するなど、職員の皮膚トラブル防止への意識も高まった。

＊ グループ職員の一体感

グループ職員全員同じ意識で協力し、目に見えた結果が図れ、職員の一体感を感じることができた。

《まとめ》

今回の取り組みは地道な作業かつ、当日の日勤者に負担がかかっていたが目に見えた改善もあり、今後も継続していきたいため無理なく続けていくためにはどうしたら良いか？をもう一度皆で話し合い、またそれぞれの職員がスキルアップを図り、「気付く力」の向上に努めていくことが皮膚トラブル防止につながるのではないかと考える。

《提案と発信》

今回のフットケアでご利用者に心地よさを提供することが出来ました。職員一人一人の「気付く力」が職員一体となって取り組んだ成果であります。高齢者への様々なケアはこの「気付く力」に帰するものであり、高齢者介護に携るすべての人たちが常に「気付く力」を持ち続けることで、ご利用者によりよいケアが提供されると私たちは確信しています。

【メモ欄】 追加資料 無